

S I P 第 3 期「スマート防災ネットワークの構築」
「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画」の変更について

令和 8 年 5 月 2 8 日
スマート防災ネットワークの構築
プログラムディレクター 楠 浩一

今般、「スマート防災ネットワークの構築」においては、研究開発計画の進捗、SIP 中間評価の結果、新ビジョンの設定、令和 8 年度の予算配分の決定等を踏まえ、「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画」の変更を行いたい。主な変更点は以下のとおり。

1. 新ビジョンの設定

「スマート防災ネットワークの構築」の課題概要、ミッションの変更はないものの、これまでのサブ課題を中心とした研究開発体制から、一層の社会実装の加速化・効率化のため、対象ユーザーを明確にした 4 つのパイプライン（社会実装単位）に基づく新ビジョンを設定した。また、サブ課題の成果がより有機的に機能し、相乗効果を得るため、各パイプラインにおけるサブ課題間データ連携を具体化した。

2. 次年度の研究開発計画

新ビジョンに基づき、SIP 第 3 期の残り 2 年間で最終目標を達成するための計画を策定した。各サブ課題では、AI 等によるシステムの高度化・機能強化、実証実験による効果検証、国際展開などを計画する。また、各パイプラインにおけるサブ課題間データ連携の実証実験を行う。

＜社会実装に向けた、次年度における各サブ課題の主な取り組み＞

・サブ課題 A（災害情報の広域かつ瞬時把握・共有）

災害情報瞬時把握プロダクトを評価・検証するプラットフォームの構築と有効性の検証

・サブ課題 B（リスク情報による防災行動の促進）

浸水情報・予測情報等リアルタイムリスク情報を提供するシステムの実装

・サブ課題 C（災害実働機関における組織横断の情報共有・活用）

合同訓練結果を踏まえた実適用モデルの開発、AI による音声情報の自動解析

・サブ課題 D（流域内の貯蔵機能を最大限活用した被害軽減の実現）

内外水一体浸水ハザード評価モデルの単・複合モデル流域での実証試験

・サブ課題 E-1-1（防災デジタルツイン自動作成等）

河川と港湾の防災用デジタルツイン自動作成システムの SaaS 化と具体事例への活用

・サブ課題 E-1-2（津波災害デジタルツインの構築）

リアルタイム津波浸水被害予想システムの標準化と津波災害デジタルツインの国内外展開

以上